

所沢市市民医療センター経営強化プラン令和5年度実施状況点検・評価報告書

- 1 所沢市市民医療センター経営強化プラン（以下「本プラン」という。）は、令和4年3月に総務省より示された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、令和6年度から令和9年度の計画として令和6年3月に策定しました。

令和5年度については、本プランの計画期間ではありませんが、目標値を設定していますので、実績をもとに下記評価区分において評価を行います。

評価区分	判断基準・評価の視点
A	目標達成
B	目標値には十分達しているが、課題はある。
C	ある程度成果は出ているが目標を下回っている（あるいは近似値で課題が残されている）。
D	目標未達成（目標を大幅に下回っている。）

2 令和5年度経営指標に係る点検・評価結果

経営指標に係る数値目標は、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、ガイドラインに基づき個々の公立病院において定めています。

持続可能な病院運営をできるように、目標達成に向けて取り組んでまいります。

令和5年度の経営指標に係る数値目標に対する実績について、点検・評価をした結果を下記に示します。

なお、詳細については3ページ以降に記載しています。

項目	目標値	実績	評価区分
経常収支比率	104.6%	108.0%	B
修正医業収支比率	80.3%	83.1%	B
病床利用率	61.8%	66.6%	B
人間ドック受診者数	9,720人	9,176人	C
給与費対修正医業収益比率	74.5%	72.5%	C

3 令和 5 年度市民医療センターの取組

令和 5 年度市民医療センターの取り組みとして、新型コロナウイルス感染症対応については、発熱外来の実施や、5 月より感染症法上の位置づけが第 5 類に指定されたことから、陽性患者の入院受け入れを開始しました。また、8 月から地域包括ケア病床を 11 床から 13 床に増床しました。

内科常勤医については、令和 4 年度末に 5 名いたところ 2 名が退職したことから、令和 5 年度は市人事部門による採用活動を行い、令和 6 年 4 月に 1 名を採用することができました。また、小児科常勤医については、4 名いたところ、令和 5 年度末に 1 名の退職があったため、現在募集を行っているところです。

看護師については、令和 4 年度に複数の退職者があり、令和 5 年度にかけて欠員状態にありましたが、令和 6 年 4 月に 3 名、5 月に 1 名を採用し、定員の 33 名を充足することができました。

デジタル化への対応として、電子カルテを令和 7 年度導入に向け準備を開始しました。

また、令和 5 年度末には、計画期間を令和 6 年度から令和 9 年度までとする経営強化プランと、現在地にて建替えによる再整備を行うこととする再整備基本計画を策定しました。

4（1）経営指標に係る数値目標

① 経常収支比率

年度 項目		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
		目標値	103.3	103.6	103.6	103.6
経常収支 比率 (%)	実績	98.3	110.3	95.6	109.7	108.0
	経常収益に占める一般会 計からの繰入金割合 (%)、(金額)	21.2 (%)	46.2 (%)	21.4 (%)	29.0 (%)	23.1 (%)
		392,418 (千円)	933,017 (千円)	393,320 (千円)	599,313 (千円)	462,346 (千円)

※令和4年度までは、改革プランの目標値

○実施状況

経営の健全性を示す経常収支比率は、令和4年度に比べると、一般会計からの繰入金は減少しましたが、インフルエンザや溶連菌などの感染症の流行により、小児科外来患者が増えたこと、また、内科一般病床や地域包括ケア病床については効率的な運用により、病床利用率が上昇したことなどから100%を上回りました。

意見
繰入金が前年度から1.4億円減額されたが、前年度に近い経常収支比率であったことは、医業収益の改善が寄与しているものである。しかしながら、目標値を上回っているものの、繰入金に頼る側面が大きいことから、繰入金の漸減を目指してください。

【実績値の算出方法】

$$\text{経常収支比率} = \left(\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \right) \times 100$$

$$\frac{1,999,648,030 \text{ 円}}{\text{医業収益} + \text{医業外収益}} \div \frac{1,851,796,309 \text{ 円}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}}$$

② 修正医業収支比率

年度 項目		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
		修正医業 収支比率 (%)	83.8	84.1	84.1	84.1
	実績	77.7	59.2	74.8	78.0	83.1

※令和4年度までは、改革プランの医業収支比率の目標値及び実績

○実施状況

経営の収益性を示す修正医業収支比率は、医業収益の増加により前年度比5.1ポイントのプラスとなりました。項目別にみると、入院収益が15.2%、外来収益が4%増加しました。

意見
令和5年度において、ここ5年間で初めて80%を超えた。実績値が目標値を上回っているが、これは目標値が低く設定されたことによるものなので、今後より一層の医業収益向上等に向けて取り組んでください。

【実績値の算出方法】

$$\text{修正医業収支比率} = \left(\frac{\text{医業収益} - \text{その他医業収益のうち他会計負担金}}{\text{医業費用}} \right) \times 100$$

1,500,374,732 円
1,806,029,496 円

③ 病床利用率

年度 項目		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
病床利用 率(%)	目標値	67.3	73.5	73.5	73.5	61.8
	実績	59.0	47.0	53.8	56.8	66.6

※令和4年度までは、改革プランの目標値

○実施状況

8月より地域包括ケア病床を11床から13床に増床し、より一層の活用を図ったことなどから入院患者数が増加し、病床利用率は前年度比9.8ポイントのプラスとなりました。

病床利用率の内訳は、地域包括ケア病床が74.4%、急性期病床が63.9%でした。

参考：急性期、地ケア内訳

		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
急性期病床	入院患者数(人)	7,494	5,943	6,978	7,446	8,582
	病床利用率(%)	53.9	42.8	50.3	53.7	63.9
地域包括ケア病床	入院患者数(人)	3,082	2,457	2,653	2,708	3,359
	病床利用率(%)	76.6	61.2	66.1	67.4	74.4
入院患者数合計(人)		10,576	8,400	9,631	10,154	11,941

意見

目標値設定が61.8%と低かったもののここ5年間で初めて60%を超えた。病床利用率に関しては急性期病床と地域包括ケア病床に分けて論じることが適切である。内訳をみると、急性期病床の利用率は約64%であったことから依然として課題がある。

また、職員の処遇改善等により医療スタッフを確保することで、入院患者の受け入れ増にも繋がるものと考えます。

【実績値の算出方法】

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{入院・在院患者延べ数}}{(\text{病床数} \times \text{日数})} \times 100$$

11,941 人 49 床 366 日

④ 人間ドック受診者数

年度 項目		令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度
		人間ドック受診者数(人)				
	目標値					9,720
	実績	9,647	4,518	8,409	9,014	9,176

○実施状況

人間ドック受診者数は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により休止・縮小したことから大幅に減少しましたが、令和3年度以降感染症対策をしながら実施し、徐々に増加をしています。しかしながら、目標値には達していない状況です。

意 見
<p>目標値には達していないが実績は令和2年度から年々増加している。人間ドック受診希望者に対応出来つつあり、今後は令和元年度並みの回復が期待できると考える。</p> <p>予防医療の観点からも重要な指標だと思うので、受診する必要性やこの病院で受ける事のメリットを多くの人に知ってもらう事や、受診者の満足度を高くすることにより、受診者数の増加に繋げてください。</p>

⑤ 給与費対修正医業収益比率

年度 項目		令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
		給与費対修正医業収益比率 (%)	目標値	70.3	69.8	69.8
実績	75.0		97.7	76.3	75.8	72.5

※令和 4 年度までは、改革プランの職員給与費比率

○実施状況

令和 4 年度に比べ給与費は僅かながら上昇しましたが、医業収益の増加により、給与費対修正医業収益比率は 3.3 ポイント下がりました。

意 見
給与費対修正医業収益比率は健全経営のために一定の範囲に収めることが望ましい。年々改善し目標を達成したものの、目標値は今までの実績を踏まえての設定と考えられ、いまだ経営上の課題は残されている。引き続き職員への適切な給与は維持しつつ収益向上による改善に努めてください。

$$\text{給与費対修正医業収益比率} = \frac{\text{給与費}}{\text{修正医業収益}}$$

$$= \frac{1,088,228,217 \text{ 円}}{1,500,374,732 \text{ 円}}$$

資料

○令和5年度病院事業収支状況

(単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
病院事業収益	1,854,370	2,037,911	1,859,854	2,087,919	1,999,682
医業収益	1,434,165	1,049,642	1,401,653	1,427,521	1,500,375
入院収益	312,157	247,585	290,623	319,381	367,972
外来収益	563,428	476,022	590,195	595,847	619,737
健診収益	521,769	280,389	456,393	473,501	475,443
その他医業収益	36,811	45,646	64,441	38,792	37,223
医業外収益	420,205	969,071	436,318	635,857	499,273
受取利息配当金				4	16
国・県等補助金			22,604	15,792	15,751
他会計負担金	66,418	65,749	60,320	38,779	57,617
他会計補助金	325,000	866,268	333,000	560,534	404,729
長期前受金戻入	16,968	16,990	17,486	17,212	17,886
その他医業外収益			2,905	3,536	3,274
特別利益	0	19,199	21,883	24,541	34
その他特別利益				24,541	34
病院事業費用	1,888,448	1,831,522	1,925,011	1,884,420	1,855,548
医業費用	1,846,273	1,774,364	1,873,002	1,829,886	1,806,029
給与費	1,075,617	1,025,940	1,068,772	1,081,493	1,088,228
材料費	313,183	293,112	301,487	257,515	241,643
経費	361,451	360,338	408,675	399,753	385,093
減価償却費	93,077	92,656	91,410	87,680	87,667
資産減耗費			860	1,873	1,558
研究研修費			1,798	1,572	1,840
医業外費用	41,118	55,044	49,096	51,285	45,767
支払利息及び企業債取扱諸費				142	110
消費税				51,143	45,657
特別損失	1,057	2,114	2,914	3,249	3,752
過年度損益修正損				3,249	3,752
純損益	△34,077	206,389	△65,157	203,499	144,134
医業損益(収支)	△412,107	△724,722	△471,349	△402,365	△305,655

○令和5年度病院事業 入院・外来・健康健診状況

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院	10,576	8,400	9,631	10,154	11,941
外来	42,933	25,996	35,975	42,731	56,188
(内科)	17,722	15,111	18,604	19,018	19,145
(小児科)	16,201	8,182	12,598	17,832	27,448
(内科救急)	108	32	50	39	105
(小児夜間)	3,440	1,207	1,966	1,677	2,851
(小児深夜)	1,509	518	833	859	1,311
(休日急患)	3,956	946	1,924	3,306	5,328
健康診断	1,164	746	469	445	527
健康検診	33,395	19,895	31,230	31,697	31,633
(人間ドック)	9,647	4,518	8,409	9,014	9,176
(その他)	23,748	15,377	22,821	22,683	22,457
計	88,068	55,037	77,305	85,027	100,289